

# まほろばだより

2020  
September  
vol.34

～ Center for Diversity and Inclusion ～

第34号

## ● Contents ●

- ✓ Report1 男女共同参画に関する授業の実施
- ✓ Report2 本学教員・研究者・学生および医師の女性割合
- ✓ Report3 「令和元年度職員満足度調査」集計結果(ハラスメント編)

Report  
1

## 男女共同参画に関する授業の実施

「奈良県の男女共同参画」 講師：奈良県こども・女性局女性活躍推進課 西橋奈穂 課長

医学科および看護学科1年生を対象とした必修授業である「次世代医療人育成論」に、9月7日(月)奈良県こども・女性局女性活躍推進課の西橋奈穂課長をお招きしました。当日は、女性研究者・医師支援センターの須崎康恵マネージャーが司会を務め、西橋奈穂課長から男女共同参画社会の理念や日本における男女共同参画の歴史、奈良県の男女共同参画の現状についてご講演をいただきました。今回の授業は学生参加型の形式も取り入れられ、学生達が身近な話題から男女共同参画について考える良いきっかけになったと思います。

本学は、県が主催する「なら女性活躍推進倶楽部」に登録し、須崎康恵マネージャーが奈良県男女共同参画県民会議委員および奈良県男女共同参画審議会委員を務める等、奈良県と連携して女性活躍推進に向けた様々な活動を行っています。今後も県と協力して、医学科と看護学科の学生が男女共同参画社会の実現を担う良き医療人に成長できるよう、男女共同参画に関する教育に取り組んでいきたいと思っています。



講師：西橋奈穂課長



授業の様子



司会：須崎康恵マネージャー



## 本学教員・研究者・学生および医師の女性割合

医学部女性教員および医学科女性教員の割合は、平成26年以降も着実に増加しています(図1)。令和2年度の医学科女性教員割合は19.8%となり、第3期中期目標・中期計画(令和元年度～令和6年度)の最終目標である20.0%に近い値となっています。令和2年度の医学科助教に占める女性割合は25%を越え、講師の女性割合も23%を越えています(図2)。しかしながら、医学科教員の女性割合(19.8%)と医学科学生女性の割合(27.6%)の間には明らかな差を認めます。女子学生のロールモデルを増やし、男女共同参画の理念に基づく質の高い医学教育を提供するためにも、さらなる女性教員の増加が望まれます。とりわけ医学科では、全国的にも教授・准教授に占める女性の割合が低く、本学においても指導的立場に就く女性教授・准教授の増加が今後の目標と考えます。

医学科学生、臨床研修医、医員の指導に携わる臨床系女性教員も着実に増加しています(図3)。令和2年度の臨床系女性教員数は第2期中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)の最終目標(35人)を大きく上回る48人となっています。令和元年度の臨床系女性教員の採用割合は35.1%となり、平成26年度の採用割合と比べて2倍以上となっています(図4)。しかし、臨床研修医や医員(専攻医、医員、病院助教、診療助教)と比べると、臨床系教員の女性割合は未だ低い状況です(図5)。今後も女性の臨床系教員を増やすためには、候補者となる常勤(本学では週5日勤務)の女性医師を積極的に採用し、臨床・研究・教育の各分野で適切なキャリア支援を提供することが重要と考えます。本学では、常勤女性医師数を令和6年度に140人とする第3期中期目標・中期計画を掲げていますが、令和2年度は年度目標を下回る123人にとどまっています(図6)。本学においても医師の働き方改革を積極的に進め、女性医師が適切なワークライフバランスを保ちながら常勤で働ける環境をより一層整えていきたいと思ひます。

図1 女性研究者割合の推移

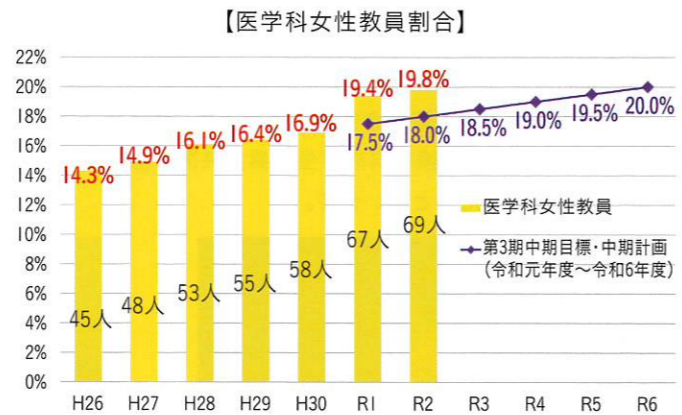
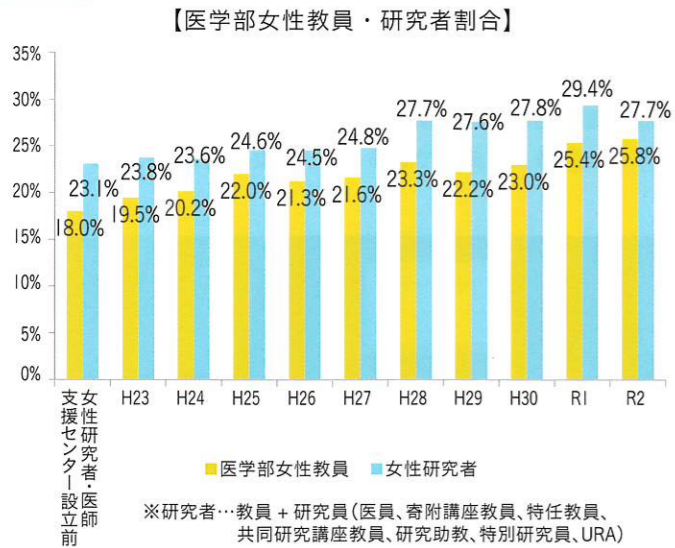


図2 医学科学生・教員の女性割合

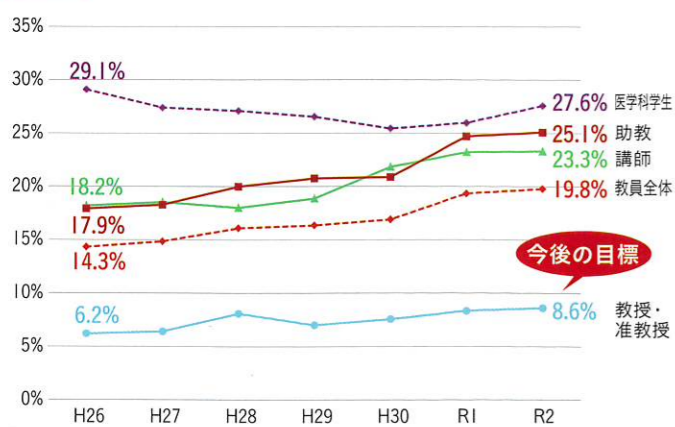


図3 臨床系女性教員数の推移

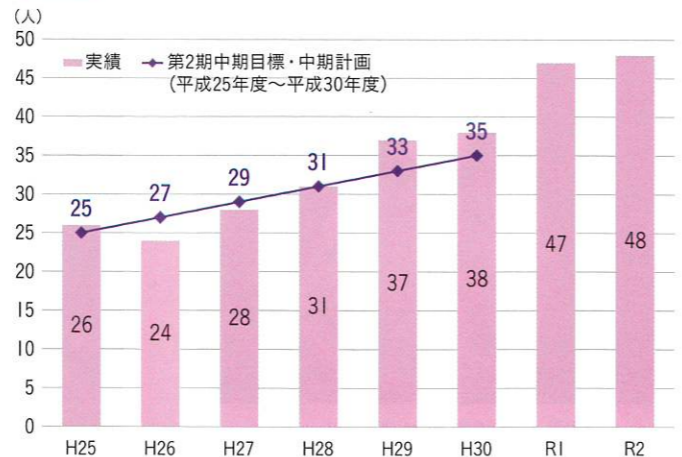


図4 女性教員採用割合

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
医学部女性教員	18.2%	26.7%	30.2%	23.1%	31.4%	33.3%
医学科女性教員	12.8%	23.3%	22.9%	22.2%	22.6%	28.9%
臨床系女性教員	16.1%	21.6%	22.7%	20.0%	24.0%	35.1%

注)女性教員採用割合(%) =  $\frac{\text{女性教員採用数}}{\text{男女教員採用総数}} \times 100$



図6 女性医師数(週5日勤務)の推移



令和2年5月1日現在、臨床系女性教員48人の所属内訳は図7の通りです。本学で最も多く臨床系女性教員が在籍するのは、産婦人科学講座(7人)で、次が病理診断学講座(5人)となっています。臨床医学講座の中で、講師以上の上位職に女性が在籍する講座は、全25教室中10教室(病理診断学、小児科学、皮膚科学、消化器・総合外科学、眼科学、放射線医学、脳神経内科学、放射線腫瘍医学、循環器内科学、消化器内科学)あり、このうち8教室では、複数の女性教員が在籍しています。上位職に女性が在籍する教室では、後進の女性医師の育成も進んでいると考えます。

一方、女性教員がゼロである臨床医学講座は、令和元年度の9教室から減少はしていますが、未だ6教室あります。これら6教室の中には、女性教員は在籍しないものの、女性診療助教が在籍する教室が2教室(耳鼻咽喉・頭頸部外科学、感染症センター)あり、そのうち感染症センターでは、今年6月に女性教員が採用されています。今後、その他の女性教員ゼロの5教室にも新たな女性教員が就任することを期待したいと思います。

当センターでは、女性研究者・医師への研究支援を中心に、ワークライフバランス推進やハラスメントの防止、医学科学生へのキャリア教育などを通して、今後も女性の活躍を応援していきたいと思ひます。

図5 医師の職位別女性割合(令和2年度)

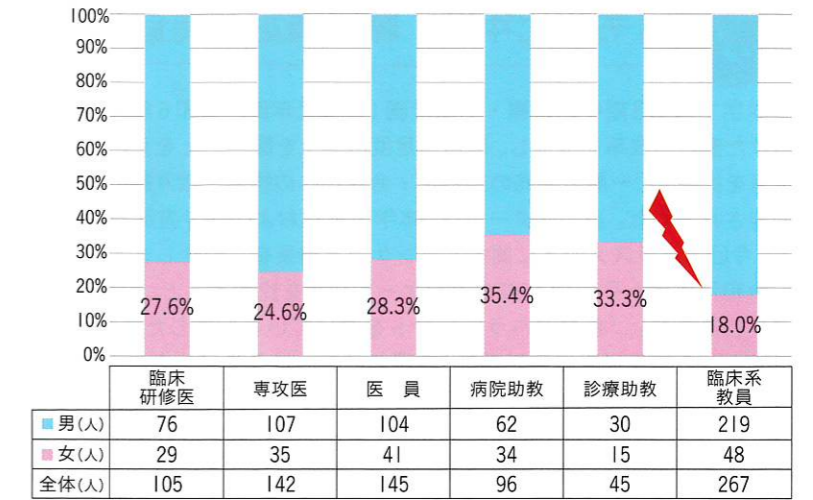
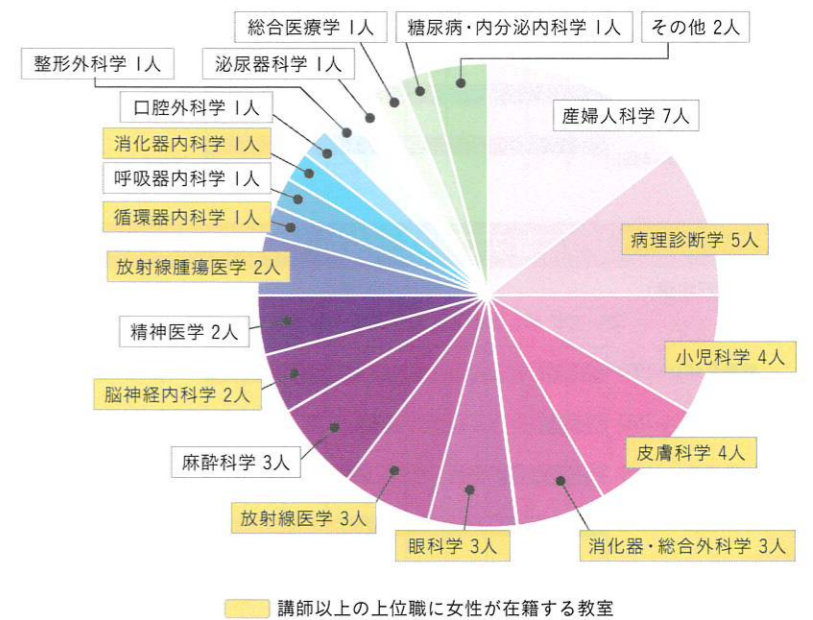


図7 臨床系女性教員の所属内訳



●女性教員及び女性診療助教がゼロの4医局

脳神経外科学、胸部・心臓血管外科学、救急医学、腎臓内科学

## 「令和元年度 職員満足度調査」集計結果(ハラスメント編)

本学では第3期中期目標・中期計画(令和元年度～令和6年度)において、全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向けた働き方改革を推進し、職員満足度の向上を図ることを目標としています。令和2年2月、職員の意識の変化、事業の進捗状況等を把握し、一層の業務の効率化・合理化への検討・取り組みを行うことを目的に、全教職員を対象としたアンケート調査が実施されました。当センターでは、本学人事課および働き方改革推進委員会と連携し、調査票の作成や結果の分析を行っています。今回はハラスメントに関するアンケート結果をご紹介します。

令和元年度と平成27年度のアンケート結果を比較すると、全職種において、この1年間に所属する職場で「ハラスメントを見聞きした割合」、「自身がハラスメントを受けていると感じた経験の割合」とともに増加しています。平成24年度と平成28年度に実施された厚生労働省委託事業『職場のパワーハラスメントに関する実態調査』でも、過去3年間に「自身がパワハラを見たり、相談を受けたことがある」が28.2%から30.1%に、「パワハラを受けたことがある」が25.3%から32.5%に増加したという結果が出ており、本学に限らず全国的にもハラスメントに対する意識が高まっています。また、今年6月より、事業主には職場のパワーハラスメント防止措置(相談体制の整備、相談したことに対する不利益取扱の禁止等)が義務付けられ、セクシャルハラスメントやマタニティハラスメント等の防止対策の強化も合わせて求められるようになり、本学においてもハラスメントの防止は喫緊の課題となっています。

当センターでは、大学・附属病院の全部署を対象に各部署が抱える個別の課題やニーズに沿った受講者参加型の研修会を実施できるよう、オリジナルのケーススタディやシナリオ作成もお手伝いします。相談業務に加えて、教職員の皆さまが自分たちで課題を解決するための支援も行っていますので、希望される部署がありましたらご相談ください。

### 職員満足度調査集計結果

調査期間：令和2年2月17日～28日

配布数：2,759

調査方法：自記式調査法(質問紙調査・インターネット調査)

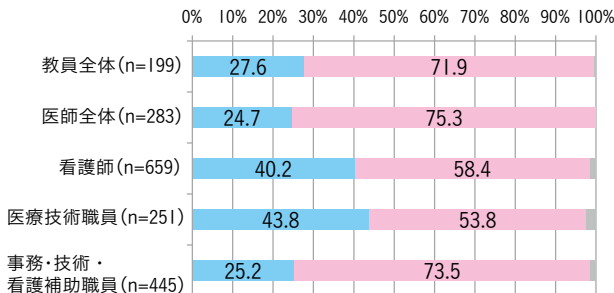
回収数：2,247

調査対象：奈良県立医科大学に所属する教職員

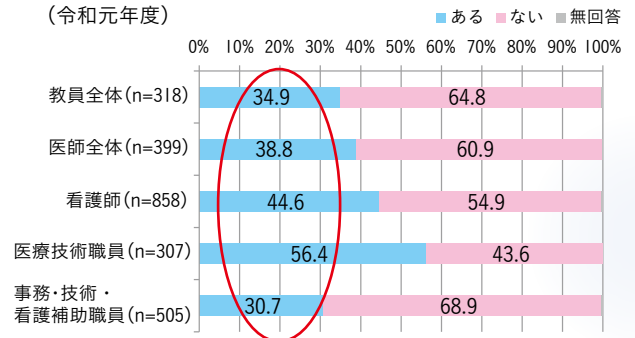
回収率：81.4%

### この1年間に所属する職場でハラスメントを見聞きしたことがありますか

(平成27年度)

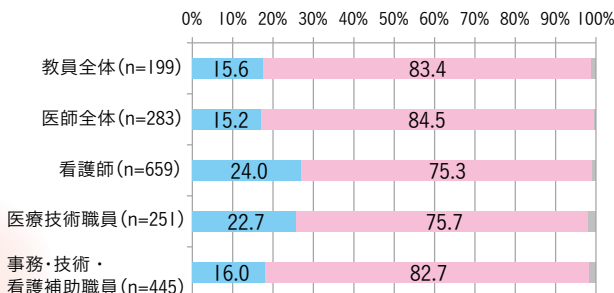


(令和元年度)

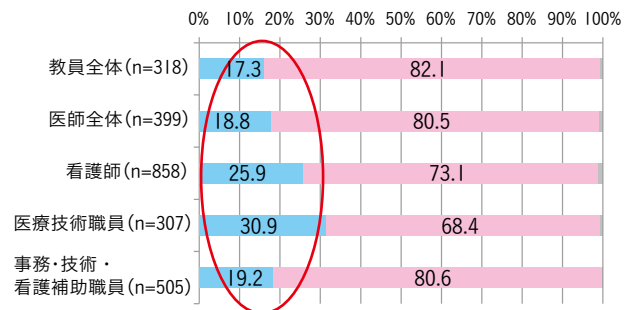


### この1年間に所属する職場であなた自身がハラスメントを受けていると感じた経験はありますか

(平成27年度)



(令和元年度)



### 【編集後記】

今年の夏は最高気温が40℃を超える地域もあり、猛暑で身体に疲れが溜まっている方も多いのではないのでしょうか。季節はそろそろ食欲の秋。栄養価が高く、免疫力アップにも効果的な旬の食材を意識的に取り入れ、夏の疲れを解消して、秋冬に備えましょう。新型コロナの影響でまだまだ予断を許さない状況が続いていますが、季節の移ろいを感じながら、一人一人が元気に毎日を過ごせますように。

### 【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL: 0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代) 内線: 2525  
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

